



うれしの

2020.6

第63号

【発行所】
嬉野医療センター佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿甲4279-3

「川上峡（佐賀市大和町）」 撮影者：南川栄子

基本理念

「ひとり一人を大切に」

医療は患者さんの為のものであり、安心して安全な医療の実践が必要である。ひとり一人を大切にするとは、この医療の実践に重要である。この「ひとり一人」は、患者さんのみならず当院に関係する全ての人たちを指し、ひとり一人が大切にされることによって、ひとり一人が周囲を大切にする。このようにして、当院は人命を尊び人格を敬って医療に携わっていくものである。

運営方針

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 迅速で質の高い医療 | 5 適切な病院機能の更なる継続 |
| 2 安全で安心な医療 | 6 経営基盤の確保 |
| 3 地域医療構想に基づく医療 | 7 将来を担う医療人の育成 |
| 4 患者さんの権利を重視した医療 | 8 臨床研究と治験による医療への貢献 |

患者さんの権利

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2 疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7 継続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4 プライバシーが守られる権利 | 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

退職に寄せて

看護部長 江崎章子

今まで多くの先輩方を見送ってまいりましたが、いよいよ自分の番となりました。3年前、嬉野医療センターに赴任した時は、新病院移転という大きな課題があり不安な気持ちでしたが、院長先生をはじめ職員の方々に暖かく迎え入れていただき、大変な中でも楽しく仕事をすることができました。私は病院敷地内の宿舎に入居していましたが、宿舎のベランダから病院を眺めるのが好きでした。春にはウグイスの声や朝日に染まる桜の花、6月には螢、夏にはセミの声、秋には彼岸花や紅葉に心が和み、冬の霜さえも愛おしく感じて、わずか3分の通勤でしたが、何枚も写真におさめました。この環境は嬉野医療センターが昭和12年に海軍病院として開院したときから、ずっと患者さんや職員を見守ってきたのだなぁと感じる毎日でした。旧病院での勤務は2年間でしたが、新病院移転時はとても寂しい気持ちになりました。

しめくくりの今年度は、新病院移転の大イベントを無事にのりきり、心おだやかに定年退職の日を迎える予定でしたが、最後に新型コロナ対応に追われる日々となりました。振り返って思えば看護師になってからの38年間、「絶えず激動時代」であったと思います。国立病院機構を離れることになりますが、これからも環境に適應できるよう進化そして深化し続け、やりたい医療ではなく地域に求められる医療は何かを考えていきたいと思います。支えていただいた多くの方々に感謝いたします。ありがとうございました。



転任のご挨拶

事務部長 有岡雅之

このたび、4月1日付で長崎医療センターに異動となりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

当院には平成30年4月に赴任してから2年間お世話になりました。わずか2年間でしたが、新病院の建替、移転という半世紀に一度の大きなプロジェクトに関わらせていただき、密度の濃い2年間となりました。

これまでの赴任先で、敷地内への病院移転には携わった経験がありましたが、当院は救命救急センターを含む424床を擁する大型病院、しかも第三地点への移転ということで、さらに大変な仕事になるだろうと、大きな不安を抱えて赴任してきました。

ところが赴任当日、嬉野医療センターの恒例行事、院内宿舎の敷地で開催される転入者の歓迎を兼ねての「お花見」に顔を出すと、100人を超えるたくさんの、それも若い職員の方達が多く集まって、地面に敷いたブルーシートの上で院長、副院長と車座になって盛り上がっているのを見て、赴任初日にして病院の雰囲気の良さを体感するとともに、ほろ酔い気分の中で、これなら病院移転もうまくいきそうな気がしたのを覚えています。

そして年号も変わった令和元年6月1日、それまで移転準備委員会で何度も重ねられてきた話し合い、シミュレーションにより万全の準備を整え無事、旧病院から新病院へ入院患者の移転を済ませると、6月4日には外来診療も再開し、グランドオープンにこぎつけることができました。その後は特に大きな問題もなく現在に至っており、安堵しているところです。

新病院でも毎日、事務部長室には前日の救急患者のデータが報告されます。佐賀県のみならず長崎県の一部にも及ぶ広範なエリアより、新生児から90歳を超える高齢の患者さんまで、多くの住民の方が受診され、時には救急車で、時にはドクターヘリで嬉野医療センターに搬送されている様を見ると、まさしく地域の拠点病院として期待されていることがひしひしと伝わってきます。今後さらなる病院機能の充実が求められる一方で、大型医療機器等への投資条件として経営面での改善も求められることになりますが、嬉野医療センターのチームワークがあれば、どんなハードルも乗り越えることができると確信しております。これからの皆様の健闘を祈念しまして異動の挨拶とさせていただきます。

2年間に難うございました。



臨床研修終了報告

長妻剛司 先生

2年前、旧病院で働き始めた時は、医師としての心構えが十分でなく、消極的でなにも出来ませんでした。日々診療にあたっている先生方をみて、医師としての自覚や責任を持ち、少しずつではありますが、出来ることも増えていきました。しかし、まだまだ出来ないことも沢山あり、これからも精進していこうと思っております。医師になった以上、患者さんやスタッフの皆さんから様々な事を学んで吸収していきたいと思えます。

4月からは引き続き当院の消化器内科レジデントとして働きます。より一層、気を引き締めて頑張りたいと思えますのでよろしくお願い致します。

.....

山下翔太 先生

嬉野での研修は、研修医の数がそこまで多くない事もあり、各科で色々な症例や手技を経験することができ、とても充実した2年間でした。また、病院移転などもありそういう点でも貴重な経験をさせていただいたと思えます。

研修中は先生方には優しく時には厳しくご指導いただき、たくさんの事を学ぶことが出来ました。本当にありがとうございました。また院内の多くのスタッフの方々にも色々とお迷惑をおかけしたかと思いますが、優しく接して頂き本当にありがとうございました。

これから、眼科医としてまた新たなスタートとなりますが、ここで学んだことを活かしてこれからも努力していきたいと思えます。またこちらの方で働く機会もあるかもしれませんのでその際はどうぞよろしくお願い致します。

.....

黒木洋平 先生

2年間の研修では内科、外科、救急など様々な科で学ばせて頂きました。研修中は多くの先生方や、看護師の方々、その他のコメディカルの方々の熱心なご指導のおかげで、日々様々な診療スキルを学ぶことが出来ました。

これからは今まで学んだことを活かして、より良い診療を出来るようにしていきたいと思えます。

4月からは引き続き、嬉野医療センター眼科の後期研修医として働かせていただきます。少しでも多くの患者さんの健康に寄与できるように日々努力していきたいと思えます。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

.....



井上須磨 先生

2年前、医師免許は持ったものの、実際の現場では何もできず、不安なスタートを切りました。研修を経て少しずつですが、自分ができるとも広がり、やっと医師として働いているという実感が湧くようになってきたところです。教育研修部長の内藤先生は、初期臨床研修は今後の医師人生の基盤になるものだとおっしゃっていました。佐賀県南西部の地域医療の中核を担うこの病院で、どんな過酷な状況でも働くスタッフの姿をみて、医療者としての姿勢を学ぶことができたと思います。

後期研修もこの嬉野医療センター救急部でスタートすることとなりました。この1年、さらに成長できるよう、頑張っていきたいと思います。

最後に、お世話になった先生方はじめスタッフの方々に感謝いたします。



放射線管理 第1種作業環境測定士について

診療放射線技師 渡辺武美

皆さん、こんにちは。放射線科の渡辺武美です。現在私は、診療放射線技師として、一般撮影、CT、MRI、核医学検査（RI：ラジオアイソトープ）などの検査を日々行っています。しかし、私たち診療放射線技師はその検査・治療以外にも放射線管理、放射線機器管理などの余り皆さんに知られる事のない仕事も行っています。その中で、今回は作業環境測定士について紹介させていただきます。作業環境測定士とは、第1種及び第2種作業環境測定士に区分され、厚生労働大臣の登録を受け、指定作業場について作業環境測定の実務を行うものと定義されている国家資格です。

ところで作業環境測定がなぜ必要なのでしょう？一般的な作業環境の中には、有機溶剤、鉛及びその化合物、特定化学物質等の有害な化学物質、じん肺の原因となる粉じんなどの有害な物質が存在します。私たち医療現場の中では、放射性物質が有害因子として存在します。労働安全衛生法（以下：安衛法）では、その有害な因子を除去するか、ある一定の限度まで低減させ、有害な因子による労働者の健康障害を未然に防止することを定めています。空気環境その他の作業環境についてデザイン、サンプリング及び分析を行うなど、作業環境の実態の把握につとめ、職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な作業環境の形成を促進することを目的として、作業環境測定を行っています。

安衛法および電離放射線障害防止規則（以下：電離則）で規定されている作業環境測定を行うべき作業場として、当院では放射線同位元素を使用するRI室が該当します。毎月1回、空気中における粒子状およびガス状の放射線物質の濃度を測定し、測定結果を記録・保存しています。その放射線物質の測定・解析に第1種作業環境測定士の資格が必要です。当院では私を含め2名が取得しています。このように空気中における放射性物質の測定を定期的に行っていますので、皆さん安心してRI室及び放射線科にお越しください。



測定中の様子



当院の測定メンバー
左から渡辺・網田・木須



DMAT研修に参加して



薬剤部 川村萌人

令和元年11月6日から4日間かけて「令和元年度災害派遣医療チームの研修」を兵庫県災害医療センターで受講してきました。

研修は県内の医師1名・看護師1名・業務調整員3名の計5名1チームで活動を行い、私は佐賀県の業務調整員の一人として参加しました。

本研修を受講しようと思ったきっかけは、大学入学時にさかのぼります。当時東日本大震災が発災。テレビに映る光景を見て、災害時に人の役にたつ事ができたらと考えていましたが、薬剤師になった今、その当時の目標を成し遂げる良い機会と思い受講を決心しました。



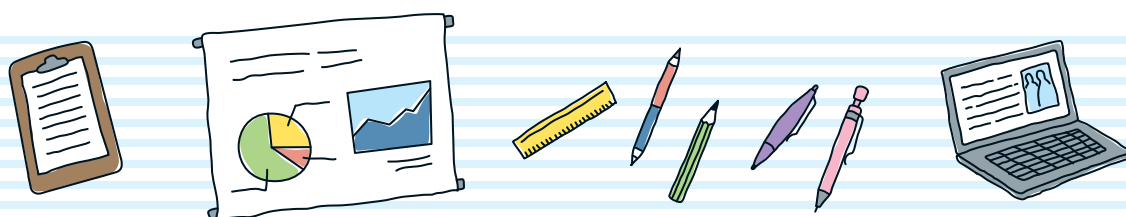
今回の研修は、初日と2日目にDMATの意義についての講義や、「列車脱線事故」や「大地震」を想定した机上訓練、衛生電話やトランシーバーの使用方法についてなど、実際の災害を意識した演習が行われました。

3日目は、2日間で学んだ事について筆記試験や面接・衛星電話・トランシーバーの使用方法などの試験があり、無事に合格する事ができました。

最終日、3日間学んだ事を実践する場として、消防隊員の方・模擬患者さんなどと屋外訓練を行いました。私の主な役割は、災害対策本部等への確に情報を伝える事でしたが、沢山の情報量が次から次へと入ってくるため、それらを正確に伝える事の難しさを感じました。

当院の薬剤部には2人のDMAT隊員が所属しています。業務調整員としての役割に加え、薬剤師としての特性を生かし、薬品の点検・在庫の確認・テロ対策備蓄品の管理に携わっています。

実際の災害時には、もっと過酷な条件で行動する事になると思います。これからも沢山の研修会に参加し、少しでも被災された方の力になりたいと思います。



腎臓リハビリテーションのご紹介

理学療法士 山田竜一郎

～腎臓病は安静ではなく適度な運動を～

今年2月22日から23日にかけて、東京で第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会在開催され、ポスターセッションにおいて発表を行いました。

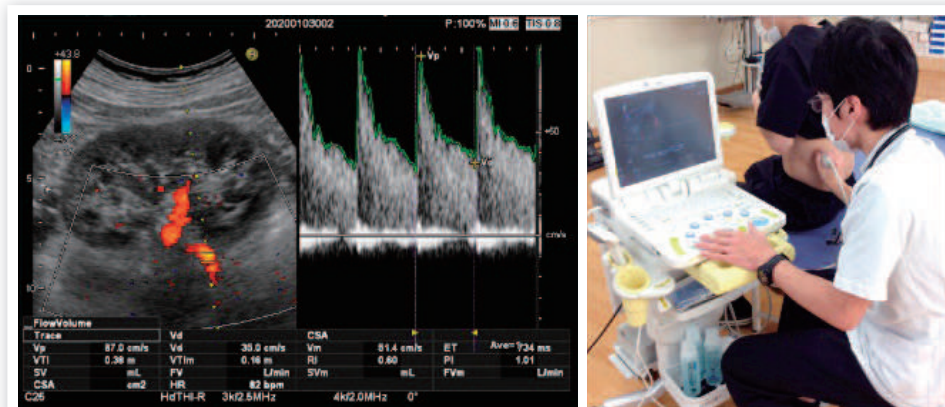
腎臓リハビリテーションとは聞きなれない言葉だと思いますが、学会の定義では「腎疾患や透析医療に基づく身体的・精神的影響を軽減さ

せ、症状を調整し、生命予後を改善し、心理社会的ならびに職業的な状況を改善することを目的として、運動療法、食事療法と水分管理、薬物療法、教育、精神・心理的サポートなどを行う、長期にわたる包括的なプログラム」とされています。

かつて、腎臓病の患者さんは症状の悪化の恐れがあるため、運動は控え安静にすべきであるとの考えがありました。しかし、近年の研究により、患者さんに応じた適切な運動内容であれば、安全であり身体に良い影響を与えるということが分かりました。

その適切な運動を指導できる専門家が、腎臓リハビリテーション指導士です。今回の学術集会開催中に指導士の試験が実施され、私も学会発表後に受験をして参りました。試験は無事に合格でき、当院でも専門的な腎臓リハビリテーションを提供できる体制が整いました。

リハビリテーション科は、これからも質の高いリハビリテーション医療を患者さんに提供できるよう、より専門性を高めるための学術活動にチャレンジし続けて参ります。



運動負荷前後で腎動脈血流速度を測定

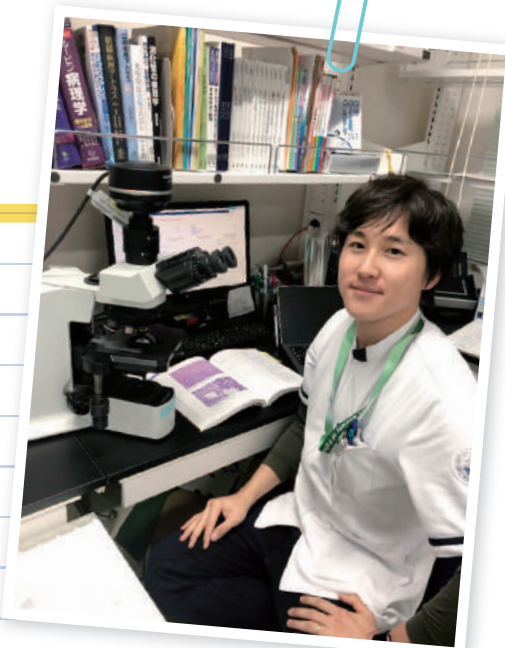
嬉野での生活を ふりかえり

病理診断科 松岡優毅

病理診断科の松岡です。嬉野医療センターで初期研修2年、その後病理診断科レジデントとして2年の計4年間、新旧の嬉野医療センターで研鑽を積ませていただきました。

まず、終始熱心なご指導を頂いた内藤愼二先生、田場 充先生、そして細胞診技師の倉橋幸恵さん、岩永浩輔さんに感謝の意を表します。

今回、このような機会をいただきましたので、初期研修とレジデント時代を分けて振り返ってみたいと思います。



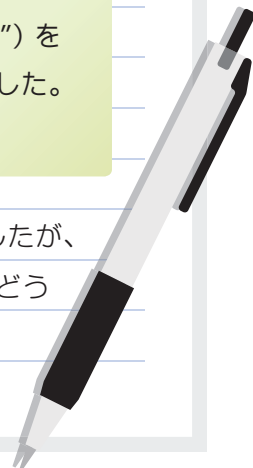
初期研修時代

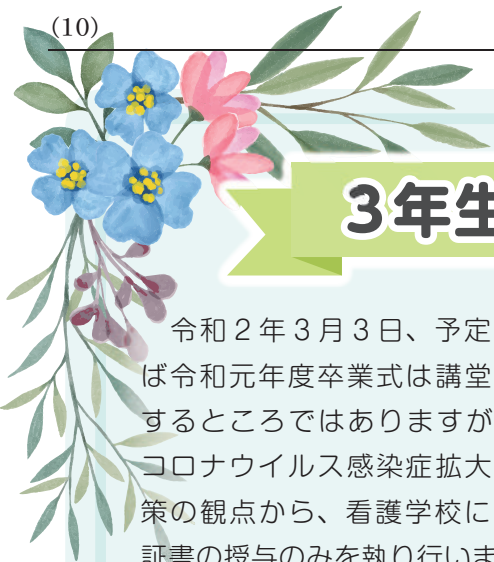
嬉野医療センター初のフルマッチ、同期6人での研修でした。“キャラの濃い”・“元気な”研修医達だったと自負しております。(元気さ故に、ご迷惑をおかけした方も多々いらっしゃると思います。この場を借りて謝ります。申し訳ありませんでした。)嬉野での研修は、各科の垣根が低く、他科をローテート中も気軽に診療の相談に乗って下さる先生が非常に多く、無知で経験のない私にとっては非常にありがたい環境でした。また、病理診断科を志していた私に対して、指導内容や環境をフレキシブルに変えていただけたことも、より有意義な研修を送ることができた理由の一つと思っています。

病理診断科レジデント時代

初期研修で得た臨床経験と人のつながりを活かすことで、ストレスなく病理診断業務に集中できる環境でした。市中病院でどうしても診断業務中心の生活になってしまいがちですが、グループディスカッション(病理診断科ローテートした研修医の先生は体感したと思います)が内藤先生からの“質問千本ノック”を通じて、病理標本を見ながらも常に分子病理を意識する習慣が身に付きました。この知識・経験は4月からの大学院での研究にきっと生きてくるでしょう。

この4年間、非常に人に恵まれた良い環境で仕事ことができました。最後になりましたが、関わって下さった総ての方々に深く御礼申し上げます。今後とも病理診断科をどうぞよろしくお願いいたします。





3年生45名が卒業しました

令和2年3月3日、予定であれば令和元年度卒業式は講堂で実施するところではありますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から、看護学校にて卒業証書の授与のみを執り行いました。

卒業生からは記念品として「ヒラドツツジ」を頂きました。ヒラドツツジの花言葉は「節度」「慎み」「愛の喜び」などです。ヒラドツツジは看護学校の職員駐車場側（建設中の駅側）に植樹され、花が咲き始めています。ぜひ一度見に来られてください。



ここで、卒業生からのメッセージを紹介させていただきます

・学校生活を通して人間力を育ててくださった先生方、講義を通して多くの知識を与えてくださった先生方、実習を通して基礎的な看護実践力を養ってくださった方々、本当に多くの方々にご尽力をいただき、3年間で様々な学びを得ることができました。これから看護専門職業人として、患者様やご家族の思いに寄り添える看護師を目指して努力していきたいと思います。

・日々の講義だけでなく看護師国家試験に向けて、先生方、病院内の皆様、多くの方々にご尽力をいただき、全員で合格することができました。思うように勉強が進まず辛く苦しい時にも、皆様の応援があって乗り越えることができました。感謝しております。これからは看護師として責任を持つ看護を実践していきたいと思います。

・多くの方々に支えられ無事に卒業を迎えることができました。これから新人看護師として働くことに緊張をしていますが、看護学校での3年間の思い出しながら、努力し続けることを忘れずに大きく成長していけるよう頑張ります。



新入生(68回生)が入学しました



令和2年4月7日(火)入学式は中止いたしました。新入生44名は感染症対策に努めながら学校長から入学許可を受けました。

河部学校長より、「これから看護学校で過ごす3年間で、皆さんがどのように色づけられるかが非常に大切になります。自分が何をしていくかによって、自分の身につけられる力が変わり、自分の生きがいを感じる事ができ、自信を持って仕事をしていけるようになるということです。また人間はコミュニケーションが必要であり、患者様とはもちろんのこと、医療スタッフ間でも非常に大切になります。相手のことを自分のことのように理解することが大切になります。患者様の中には、孤独であったり、余裕がなくなってしまう方もおられます。そういった方々に寄り添い、思いを受け止めて救いを与えられる存在になってほしいと思います。これから3年間しっかりと勉強をして知識と技術を修得し、国家試験に合格して、皆さんの理想の看護師像を完成させられるように頑張ってください。」とエールをいた



だきました。新入生代表は「私たちはこの嬉野医療センター附属看護学校で豊かな人間性を養い、高い看護実践力を身につけていきたいと思えます。これからの3年間、仲間と共に精一杯学習に励み、社会に貢献できる自立した看護師になれるよう努力することを誓います。」と宣誓し、エールに応えました。



「身元引受書兼診療費等支払保証書」への 極度額（保証の上限額）の追加について

令和2年4月1日より「民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号）」が施行されました。改正された民法では連帯保証人の保護が図られることとなり、連帯保証人に極度額（保証の上限額）を設けることが義務化されています。

当院では、令和2年4月1日以降に入院される患者さんにつきましては、極度額（保証の上限額）を基本的に50万円と設定させていただくこととしました。

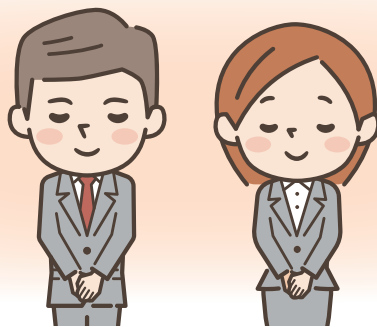
それに伴い、入院申込みの際にご提出いただく「身元引受書兼診療費等支払保証書」の様式に極度額（保証の上限額）を記載させていただいております。

今回の対応は法改正に伴うものですので、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、この極度額（保証の上限額）は連帯保証人が負う最大負担額となっており、実際の入院治療費の額ではありませんのでご注意ください。

※改正の内容についてのより詳しい説明は、法務省ホームページをご覧ください。

法務省HP：http://www.moj.go.jp/MINJI/minji06_001070000.html



ご不明な点がございましたら、企画課財務管理係までお尋ねください。

training

研修報告

report

令和元年度QC手法研修に参加して 経営企画係長 伊東敦嗣

九州医療センターにて開催されました「QC手法研修」に参加させていただきました。
QC活動とは、職場内のあらゆる問題に対して小グループで取り組む活動のことであり、院内でも毎年多くのグループが活動をして業務改善を図っています。今回、病院内のQC活動の更なる活発化に向けて、QC活動の意義やQC手法を勉強させていただきました。

まずは、QCにおける8つのプロセスについて講義がありました。「テーマの選定」から「目標の設定」、最終的な「成果の定着」に至るまでのプロセスに沿って問題を検討していきます。そして各場面に応じたフレームワークを活用することが問題解決を図るうえで効果的であることを学びました。

次に、講義で学んだQC手法に基づいて、各病院の事例を用いてのグループワークを行いました。私のグループでは「ベッド周辺機器のケーブルの整理」について検討を行いました。短い時間でありましたが、学んだ手法に沿って検討を進めることで、より多面的に問題を捉えることが可能となり、意見交換も活発となり、実行案の策定までよりスムーズに行えることを実感できました。

今回の研修を通じて学んだ知識を実践できるよう、業務上の身近な問題を職場内で共有をしていくことから始め、業務改善を図っていきたいと思います。

日本医療マネジメント学会レポート

医事 外来係 佐々木遥

令和2年2月8日に、日本医療マネジメント学会第17回佐賀支部学術集会被開催されました。佐賀県内の病院職員が参加し、「ICT社会における医療マネジメント」というメインテーマで発表が行われました。私は、「外来案内器運用による患者待ち時間の有効活用について」という演題で発表させていただきました。当院で約4年前から導入している案内器やLINEの機能が、患者待ち時間の有効活用にどのように役立っているのか、患者さんの声などを交えて発表しました。

私にとって今回が初めての学会発表でしたので、発表ポスターの作成や内容をまとめるのに苦戦しましたが、同じ部署の先輩や上司に指導を頂きながら、発表ポスターを作成しました。また、学会発表のリハーサルを行い、参加した職員から様々なご意見を頂き、自信を持って本番の発表に臨む事ができました。

また、他病院の取り組みなどの発表を聞く事ができ、非常に勉強になりました。今回の学会発表という貴重な経験を通じて学んだことを日々の業務に生かしていきたいと思います。



がん相談支援センターの紹介

医療社会事業専門員 廣田由紀

がん相談支援センターでは、4名の医療社会事業専門員（医療ソーシャルワーカー）が、がん治療や治療中/治療後の生活、療養の場、経済的問題、仕事に関することなど、がんにかかわる様々な質問や相談にお答えしています。また、がん相談支援センターで解決することが難しい内容についてはより専門的な部署・担当者への橋渡しを行っています。

様々なご相談の中でも、就労・年金など経済的問題に関する相談は増加傾向であり、昨年12月より治療と就労の両立支援事業を開始しました。佐賀産業保健総合支援センターの社会保険労務士による出張相談窓口を開設しておりますので、病気のことをどのように会社に伝えたらよいかわからない、職場復帰するための準備はどうしたらいいのだろうかなど、治療をしながら働き続けることに不安をお持ちの方、仕事を辞める前にまずはご相談ください。

また2月からは、ハローワークによる長期療養者就職支援事業も開始しました。就職支援ナビゲーターによる出張相談窓口を設け、再就職や転職に向けた職業相談や仕事の紹介などを実施しています。就職の準備が整っていない場合であっても、「就労に関する考えの整理」や「履歴書の書き方」など、求職活動全般に関する相談にも応じております。

出張相談につきましては、予約制となっておりますので、事前にお問い合わせください。出張相談以外の相談につきましては、随時受け付けておりますので、がん相談支援センター（2階 患者サポートセンター内）にお気軽にお立ち寄りください。

解決することが難しい問題も多々ありますが、少しでも相談者の希望が実現できるよう、スタッフ一同努めてまいります。

長期療養しながら、働きたいという方へ
～ハローワーク武雄による就職支援のご案内～

支援対象者は、がん等の疾病により長期療養中の方で医師から就労可能と判断されている方

- ◆通院の必要はあるが、働きたい。
- ◆自分の病状、体力にあった仕事を見つけたい。
- ◆治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい。
- ◆しばらくぶりに仕事に戻ることに不安を解消したい。
- ◆就職活動で、企業に病気のことを伝えるべきか迷っている。
- ◆仕事復帰に際して、どんなスキルが必要か知りたい。

こんな悩み・不安を婦野医療センターとハローワーク武雄が連携し解消に向けて一緒に取り組みます

ハローワーク武雄では、専門の就職支援担当者「就職支援ナビゲーター」を配置。マンツーマンであなたの就職を支援します。能力や適性、病状、治療状況などを考慮して、あなたの希望条件等にあった仕事の紹介を行います。

- 症状や通院状況に配慮し、ご希望の求人を探します。
- 応募書類の作成指導や面接の受付方等、就職準備支援のアドバイスも行います。
- 雇用保険手続、職業訓練や就職支援セミナーなどをご紹介します。
- 仕事復帰の不安解消のための相談にも応じます。

※状況に応じて医療機関担当者と連携により相談を行います。

ハローワーク武雄の就職支援ナビゲーターが
毎月第3水曜日
11:00～14:00
婦野医療センター 2階
患者サポートセンター（相談室）
で、皆さまの相談に応じます。
是非、ご利用ください。

～お問合せ先～
婦野医療センター がん相談支援センター
（2階 患者サポートセンター内）
TEL 0954-43-1120

院内正堂1階
患者サポートセンター
総合受付
紹介状受付
カウチャー

佐賀労働局 ハローワーク武雄 TEL 0954-22-4155

佐賀産業保健総合支援センターによる

治療と仕事の両立を支援するための相談窓口を開設しています！

治療をしながら
働き続けることが不安・・・

- 病気をする前のように働けないのでは？
- 病気のことをどのように会社に伝えたらよいかわからない？
- 職場で配慮したほうがよいことなどを、主治医から意見をもらいたい
- 職場復帰するための準備はどうしたらいいのだろうか？
- ……など

相談日：毎月第2木曜日 11:00～14:00
（相談日以外も対応可です。事前に下記までご連絡を）

場所：2階 患者サポートセンター（がん相談支援センター）

対象者：がん、脳卒中、心疾患、糖尿病 など療養中の
労働者本人（雇用保険加入者）、その家族、事業主、
人事労務担当者…など

*公務員や自営業の方は対象になりません

問い合わせ先 がん相談支援センター（2階 患者サポートセンター内）
TEL 0954-43-1120
受付時間 9:00～16:00 月～金曜日（祝日を除く）

春の花だより

栄養管理室 林田由紀子

皆さんはこの花が何かご存知でしょうか？（写真①②）

実家の花壇に咲いていた花。ん？菜の花を植えた記憶はないのに変だな。と思ってよく見たら、何と葉ボタン！でした。

葉ボタンはよく門松に飾ってあるキャベツみたいな花です（写真③）。1月に植えた葉ボタン、大きく横に丸くなると思っていたのですが、縦に伸びてすっかり菜の花？になっていました。

調べてみると、葉ボタンもキャベツと同じアブラナ科アブラナ属。キャベツは菜の花のような花が咲き食べられるそうですが、葉ボタンは食べられるのかな？（調べたけれどわかりませんでした）

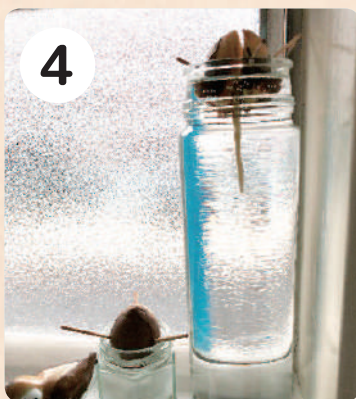
普段何気なく見ている菜の花も、もしかしたら違う植物かもしれませんね。

ちなみに、料理に使用したキャベツの芯は土に植えるとエコ栽培できるそうですが、こちらはあくまでも鑑賞用で、食べるほどには美味しく育たないようです。



エコ栽培といえば、昨年より種からアボカドの水耕栽培に挑戦。（写真④）根が出るまで1ヶ月、芽が出るまで1ヶ月かかりました。水だけで根と茎が出るなんて不思議です。先日実家の庭に植えてみました。（写真⑤）実がなるかわかりませんが、鑑賞用として楽しみたいと思います。

何気なく捨てている種から出た芽の成長から、植物の生命力を感じる今日この頃。サツマイモやじゃがいも等も水耕栽培で観賞用の葉が楽しめます。皆さんもエコ栽培でグリーンを楽しんでみてはいかがでしょうか。



臨床研修部 治験管理室

新メンバーによる治験管理室となりました!

(治験主任の異動のご挨拶と新メンバー自己紹介)

治験主任 藤瀬陽子

この度、異動により嬉野医療センター治験管理室を去ることになりました。8年間の勤務のうち、6年間を治験管理室で過ごしましたが、皆さまには大変お世話になりました!

治験管理室は少ない人数の部署ですが、治験の業務に関連する部署は多いため、本当に職員の皆さまに支えていただきながらの業務でした。ありがとうございました。

そして何よりも、治験にご協力いただいた患者さんたち。皆さまのおかげで治験は成り立っています。本当に本当にありがとうございました。

治験では通常の診療とは違うことも多く、患者さんや担当の先生、病院スタッフの皆さまを戸惑わせたことも多かったかと思います。できるだけ皆さんの負担にならないように気を配っていたつもりですが、至らなかった部分もありました。それでも治験に携われたことは私の誇りです。皆さんと出会えたことに感謝いたします。

4月からは新スタッフの治験管理室となります。今後も治験管理室をどうぞよろしくお願い申し上げます!



治験主任 北原愛子

4月より治験管理室に異動になりました、薬剤師の北原です。

これまでは主にがん診療に関わってきましたが、今回は「治験」という私にとっては未知の世界…まではいきませんが、それくらいちょっと近寄りがたい分野でもあった部署です。

そのため、色々至らない事が多く助けていただく事ばかりかと思いますが、逆に「治験」を同じように未知の世界だと思っている方には身近なものと感じて頂けるようにできるのではないかと考えています。身近なものとできるように、拙いながらも精一杯頑張りますので、何かあれば気軽に声をかけて頂けたらと思います。これから、どうぞよろしくお願い致します！

看護師CRC 中村留美

2月より治験管理室で看護師CRCとして勤務させていただいています中村と申します。

看護師として、リウマチ・糖尿病内科、循環器・心臓血管外科病棟で勤務してきた他、地域医療連携室で退院支援専従看護師として勤務をしてきました。こうした経験を活かし病気や治験薬に対する関わりに加え自宅での生活をサポートできるような関わりも行っていきたいと思っています。

良い薬や治療法を早く患者様のもとに届けたい！という使命感を持ち治験管理業務に携わっていきたいと思っています。よろしくお願い致します。



マーク英会話



Hi, Im Mark!

nervous = 緊張

Of course = もちろん

fantastic nightlife =
素晴らしいナイトライフ

incredibly fun = とても たのしい

originally = もともと

improve your English =
英語を上達させる

HINTS

Congratulations to Ureshino National Hospital's new staff! Are you **nervous**? Don't worry, you will love it here!

Of course, Ureshino is a friendly town with beautiful onsens, good restaurants & **fantastic nightlife**.

But did you know Ureshino National Hospital is also an **incredibly fun** & friendly place to work?

Most of the staff here are not **originally** from Ureshino. So everyone makes many new friends.

Finally, we have English classes! If you want to:

- * have fun
- * make friends
- * **improve your English**

Please come and join us. Beginners welcome!

お尋ねなどありましたら、私もしくは
教育研修部までご連絡下さい。

新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策のため以下の項目にご協力ください。

1 外来受診の方

病院を受診すること自体が感染のリスクとなる場合があります。発熱時や体調不良時はまずは自宅で経過を見ていただき、改善しない場合はお住まいの保健所へご連絡下さい。なお、嬉野医療センターは8:15に解錠し、その後院内へ入ることが出来ます。

2 面会の方

4/6より面会禁止となりました。
お荷物の受け渡しなどは、下記の場所で、余裕を持って、なるべく平日の指定時間内（13:00～20:00）にお願いいたします。

荷物受け渡し場所：平日13:00～20:00 各病棟入り口

※状況によって変わる場合があります。ご了承下さい。

患者さん並びにご家族の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願い致します。

嬉野医療センター 院長

